

令和7年度 台東区立竹町幼稚園 経営計画 評価・改善策

令和8年 2月 6日 作成

教育目標	元気いっぱい 夢いっぱい やさしい心の竹町の子
目指す幼稚園像	・幼児期を幼児らしく、のびのびと豊かに生活できる幼稚園 ・保育の質の向上を図り、個の育ちと協同的な学びの場を保障する幼稚園 ・家庭や地域と連携し、幼児・保護者・教職員が共に育つ幼稚園
目指す幼児像	・体をよく動かして遊ぶ、健康な幼児 ・人や自然を愛し、心の豊かな幼児 ・好奇心をもち、すすんで考え創意工夫をする幼児 ・友達と助け合い、楽しく遊べる幼児
目指す教師像	・保育を楽しみ、一人一人の育ちを大切に促す教師 ・互いに信頼し合い、協力し合う教師 ・向上心をもち、自己研鑽できる教師 ・保護者、地域と連携し園運営に参画する教師

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組に関する目標及び数値	評価	成果に関する目標及び数値	評価	取組例	評価・改善策	学校運営連絡委員の評価
幼児期を幼児らしく豊かに生活できる幼稚園	・幼児期を幼児らしく、のびのびと豊かに生活できる幼稚園 ・保育の質の向上を図り、個の育ちと協同的な学びの場を保障する幼稚園 ・家庭や地域と連携し、幼児・保護者・教職員が共に育つ幼稚園 ・体をよく動かして遊ぶ、健康な幼児 ・人や自然を愛し、心の豊かな幼児 ・好奇心をもち、すすんで考え創意工夫をする幼児 ・友達と助け合い、楽しく遊べる幼児 ・保育を楽しみ、一人一人の育ちを大切に促す教師 ・互いに信頼し合い、協力し合う教師 ・向上心をもち、自己研鑽できる教師 ・保護者、地域と連携し園運営に参画する教師	幼児が自ら体を動かす意欲を高める。	計画的な校庭・体育館や公園の環境づくり、遊び場の工夫による体を動かす意欲を促す。	・週4回以上、校庭・体育館や公園を使用し、体を動かす遊びを取り入れ、週案に記載する。 ・生活の中で、衛生・安全に配慮し、手洗いやうがい、消毒液の取り入れ。	4	自ら戸外に出て遊ぶ幼児の増加。 運動遊びに積極的に取り組み、ルールを守って遊ぶ幼児の増加。 運動能力測定の実施と数値の向上。 歩行経路の確保。 公共の場でのマナーを身に付ける。	4	・鬼遊び・かけっこ ・ボール遊び ・なわとび ・巧技台・大型マットを使った遊び ・表現活動を含めて体幹を強くする遊び ・近隣の公園に予備日も含めて必ず遊びに行く。	・保護者に引率のお手伝いを願い、柳北公園の園外保育が実施できた。次年度は2か所予定する。天候に左右されるため、予備も含めて計画しておく。 ・週案に具体的な活動内容や用意して、置く物などを記載して計画的に実施する。 ・生活習慣の手洗い・うがい等の指導は、戸外遊びから戻った時や食事前と必要に応じて行えるよう、掲示などで教師も子ども意識できるようにする ・3歳は、体育館や校庭での一斉活動を進めることが難しかった。担当が小学校と調整をして入れてもらう。	
		幼児が自ら体を動かす意欲を高める。	年間を通して、通年活動の計画を立て、季節ごとの活動を実施する。	・各年齢に合わせた花や野菜の栽培活動を実施し、収穫した野菜を家庭に持ち帰る等、育てる喜びや責任感を育てる。 ・花育活動を推進し、園舎内外の花を育てる活動を実施する。 ・親子栽培は、登園時に保護者と水やりして生長を喜ぶ。	3.7	野菜や花の栽培や身近な自然の事象に関する興味や関心を高めることへの満足感をもち、育てた野菜や花に愛着を感じ、進んで食すようになる。	3.5	・花育や親子で夏野菜の栽培と収穫をする。 ・サツマイモ（プランター） ・秋・冬野菜の栽培と収穫と調理して食す。 ・学級ごとに春秋植えの花植	・育てた野菜を調理してもらって他の学級にも食べてもらった。 ・ポップコーンとコスモスは十分に育たなかった。何故ダメだったのかを再考し、次年度も栽培するならば対策をして、できれば子どもたちに「育てた物が実る喜び」を味わえるようにする。 ・親子で登園時に水やりをしてもらったのは良かった。 ・野菜の栽培と花の栽培も両方親子ですることが難しかったが、季節の花（例・おしろい花・コスモス：菜の花等）遊びや種取等遊びにも生かせるので、学級でプランターや花壇で花の栽培をして、花への関心を高める。 ・年中は夏野菜をキュウリにして良かった。子どもも食すことができたようだ。その効果を考えると、園で野菜の栽培をする良さがあるが、苦手なものを遠ざけるのではなく、食べる工夫を家庭でできるように、園から発信をするようにしていく。 ・保護者から、家に帰るとすぐに暑さでダメになってしまった、という声があり、実がならなかった幼児もいた。近年の暑さを考慮して、置く場所の工夫などをしてもらうとよいのではないかと。	
		教師との信頼関係を基に、自己探求的な遊び環境の構築を図る。	・話す・伝える楽しさを体験させ、よき関係を築く。 ・絵本や物語の読み聞かせを毎日1回以上行う。 ・年間を通して、外国語や外国の生活を取り入れる機会を多くする。	3.5	幼児一人一人が、生き生きと人と関わり、話を楽しむ姿が増える。 外国語の歌に親しみ、歌うことを楽しむ。 外国語の歌を学期に1曲以上経験する。	3.5	・日常保育の中での会話 ・絵本・紙芝居（外国の絵本や歌） ・話し合い活動 ・英語で遊ぼう 活動	・外国語の挨拶などは学級で取り入れたが、絵本をあまり取り入れることができなかったため、意識して入れていくようにする。 ・「えいごであそぼう」のときに英語の絵本を読んだのは良かったので「今日は英語の絵本の日」と決めて、取り入れるようにする。 ・英語で遊ぼうの中に気に入った歌があったので、カセットにしたところ、繰り返し聞いて楽しんだり口ずさんだりする様子があったので継続していく。		

									<p>した内容をボードに書いて読んでもらうようにしているが、伝わり切れていないと思うので、目立つボードに変えて、見てもらうよう引き続き発信していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 保育の意図や環境に教育的意義をもって構成していることを保護者全員に知ってもらうためには、せめて、学級だよりを月に1回園だよりと同じタイミングで出すことで、分かってもらえるので発信していく。
			<p>地域の方や保護者育るが、幼児教育も子育る様、園からの発信を強化する。(配布物、ホームページ、講話)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 週末にはホームページの更新をし、その週の幼児の姿を知らせる。 • 保護者同士が懇談を回す機会を年2回にする。 	3	<p>幼児の発達や、幼稚園の教育内容が、園評価で、80%以上理解される。</p>	3.7 5	<ul style="list-style-type: none"> • 保護者会・学級懇談会 • 園だより・学級だより • ホームページでの発信 	<ul style="list-style-type: none"> • 保護者同士が子育てについて話せる機会を作った。 • 同上です。 • 学級懇談会の時に保護者が少人数のグループで話すようにしたことが良かった。最後にグループで話したことを共有して、担任がコメントをすると良いと思う。
<p>地域・家庭との連携を大切にしたり、魅力ある幼稚園</p>	<ul style="list-style-type: none"> • PTAや、の力を最大限に活用する。 	<p>出来る範囲で地域・PTA・小学校と円滑な連携を職員・保護者が行う。</p>	<p>地域の方々と保護者をつなぐ役割を認識し、情報交換の機会を作り、交流を深め、就労支援の預かり保育やPTA活動にできる内容にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 学びのキャンパスや、地域の施設を活用し、独自の体験活動が豊富にできている。 • 就労する保護者もPTA活動に参加できるようにする。 	4	<p>保護者が積極的に園の教育に関心をもてるようになる。保護者のアンケートより課題が3項目に絞られるように取り組む。</p>	4	<ul style="list-style-type: none"> • 土曜保育参観・地域散策と公園の利用 • 地域の伝統行事 • 地域の方と歌や昔遊び等の交流をする • コンサートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> • 就労している保護者も園行事になるべく参加しようとしてくれていた。 • 保護者会含め、保護者参加行事をすべて登園後にしたのは、来年度も引き続き行う。 • 3歳の預かり保育の方々には、初めのいくつかの行事を個別に声掛けし、参加の有無を聞いたことがよかった。その後の習慣につながった。
			<p>小学校・中学校と可能な交流をすすめる。互いの教育内容を理解したり、園児・児童の交流の機会を作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 小学校・中学校と可能な交流活動を行う。 • 教員同士の授業・保育の参観、研究会に参加を学期に1回はできるようにする。 	3.2 5	<ul style="list-style-type: none"> • 幼児・児童交流の振り返りや教員の研修に参観後の気付きを学期に一回はする。 	3.2 5	<ul style="list-style-type: none"> • 小学校と合同の体験活動 • 教員の交流と勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> • たいとう保育園、平成小学校との交流を行えたことで、子どもたちが同年齢の園外の友達や小学校の児童を身近に感じる事ができた。また、その後情報共有し、お互いの子どもの反応も知ることができた。 • 年中は3学期に4年生と交流したいと考えている。 • 幼児の交流は良く行っていたと思うが、教員同士の交流は難しかった。 • 幼稚園の園内研究日に指導案を増し刷りして、小学校の先生方にご案内して空いた時間に見に来てもらう。 • 小学校が水曜日の校内研究をする日に幼稚園の午前保育の日を合わせて授業を見せてもらうようにする。